

非正規雇用が賃金及び雇用に及ぼす持続的影響[†]

2016年1月20日

郭 秋薇[‡]

本論文の目的は、非正規労働者として働いた経験が労働者の賃金と雇用に及ぼす持続的影響を検証することである。ある一時点における正規と非正規労働者間の賃金格差を調べた多くの先行研究と異なり、非正規雇用が将来の雇用状態に及ぼす影響を考慮した上で、非正規雇用経験が労働者の生涯を通じて賃金に及ぼす影響を調べる。そのために、賃金の決定と労働市場参加、転職、雇用形態の決定を同時に考慮する計量モデルを構築し、これらの決定にある個人固有效果と誤差項の間に相関があると仮定することによって、賃金と雇用状態が観察不可能な要因によって同時に内生的に決定されることを捉える。「慶應義塾家計パネル調査」(KHPS)の2004年から2012年まで合計9回のパネル・データを用いて、マルコフ連鎖モンテカルロ法(MCMC法)によってベイズ推定を行う。推定結果に基づいて、シミュレーションによって非正規雇用が雇用と賃金に及ぼす影響の持続性と大きさを試算する。

推定の結果、過去の非正規雇用経験、特に1年前と2年前の経験、は現在の賃金を低下させることを明らかにした。更に、非正規雇用経験は労働市場参加、転職、及び雇用形態の決定にも影響を及ぼし、将来の雇用状態への影響を通じて賃金に持続的影響を及ぼす可能性があることを示した。シミュレーションの結果では、非正規雇用経験は以後30年間にわたり非正規雇用と無業になる確率を上昇させ、賃金に持続的な負の影響を及ぼすことを明らかにした。その影響の持続性と大きさは特に女性の場合に顕著である。これらの結果より、非正規雇用経験が将来の雇用と賃金に及ぼす影響は大きく持続的であり、非正規雇用の賃金格差を把握するためには、将来の雇用への影響を通じての効果を考慮することが重要であることが明らかとなった。

JEL 分類コード : J31, J62

[†] 本論文の分析に際しては、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターによる「慶應義塾家計パネル調査」の個票データの提供を受けた。ここに記して感謝申し上げます。

[‡] 京都大学大学院経済学研究科(e-mail: kuo.chiuwei.74c@st.kyoto-u.ac.jp)。